

【計画】4-2海水温上昇等によるイカナゴの資源量への影響調査

【分野：水産業、対象地域：兵庫県(大阪府)】

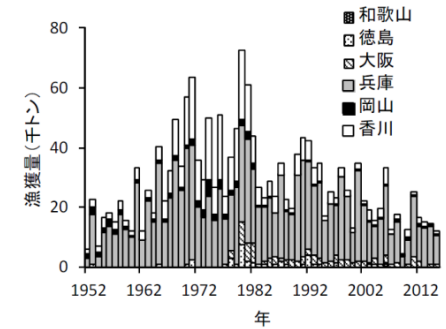
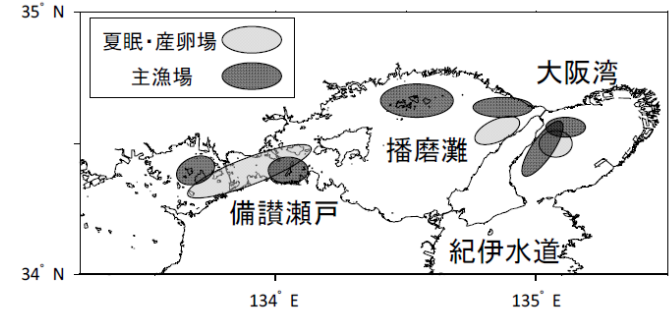
地域適応コンソーシアム近畿地域事業

■ 目的

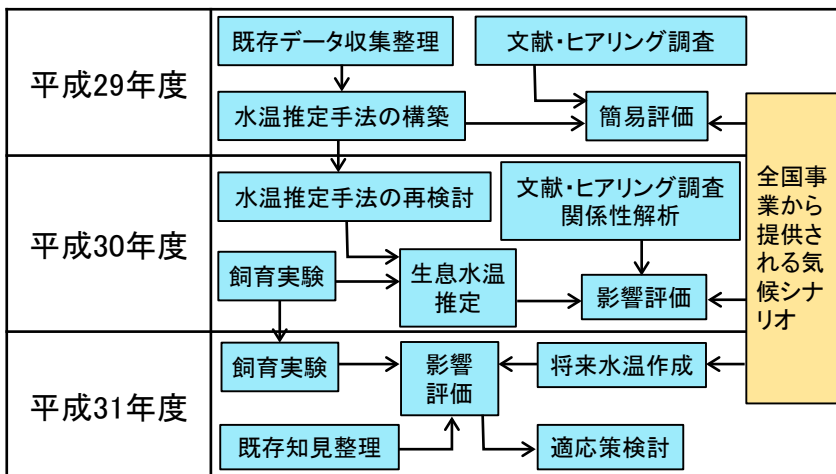
- 気候変動がイカナゴに与える影響
冷水域を起源とするイカナゴにとって夏季および冬季の水温上昇は、夏眠※・生残・加入量などに大きく影響する可能性がある。
- 現在までに顕在化している影響
イカナゴ漁獲量が近年減少傾向にあり、不漁の要因として水温の上昇や栄養塩の減少などが考えられる。
- 調査内容
イカナゴの成育水温やイカナゴに影響を与えると考えられる魚類等に関する既存知見を集積するとともに、水温を気温から推定する手法を構築する。さらに、飼育実験を行い、致死温度あるいは活動停止温度による成育下限温度あるいは成育上限温度及び成育可能温度内での生理活性を求め、飼育実験の結果を活用してイカナゴの成育水温を推定する。気候変動に伴う水温上昇によるイカナゴへの影響を評価し、適応策の策定に資する知見を得る。本調査と既存の調査結果を加味して適応策を検討する。

※「夏眠」

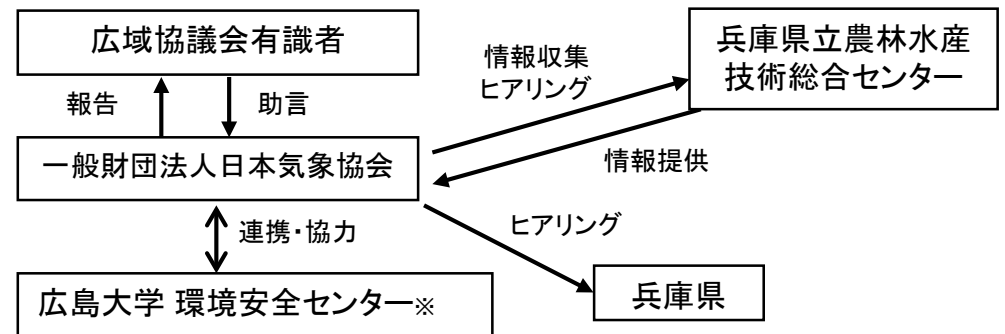
水温の高い夏から秋の間、砂にもぐって身を隠して過ごすこと。冬になって水温が下がると、砂中から出てきて再び活動を始める。



■ 調査計画



■ 実施体制



※飼育実験、現地調査、影響評価で協力